

寄せられた感想（令和5年度実施分から抜粋）

◆被爆体験証言講話

○守山市立立入が丘小学校（滋賀県）

令和5年12月8日 89名

体験を元に、原爆が落とされた経緯から、放射能の威力、また、当日の広島市内の様子などを語っていただきました。幼い頃の記憶とともに、お母様から聞かされた話などを織り交ぜて細かく人々の動きを語っていただいたことで、とても現実味があり、子どもたちは身を乗り出して聞いていました。話の内容も小学6年生の子どもたちにとっても寄り添っていただけたものでした。講師の話をもっと聞きたくて、たくさんの子どもが質問をされていて、時間いっぱい途切れることがありませんでした。



○菊池女子高等学校（熊本県）

令和5年12月13日 170名

3歳当時の被爆記憶が鮮明で、聞き手にその当時の状況がこと細かに伝わりました。子どもの目に映った地獄絵図は、戦争体験の話を身近で聞いたことがない生徒たちにとって衝撃的なもので、真剣に耳を傾けていました。講話が日本側の戦争で受けた苦しみを伝えることに終わらず、アメリカの兵士が戦後日本のために行動したことなど、広島で過ごされていなければわからなかったこともお話いただき、より深く戦争というものについて考えるきっかけとなりました。



○新座市立第二中学校（埼玉県）

令和5年12月13日 325名

7歳の時に、山の上の集落で被爆した時のご本人、周囲の様子を教えてくださいました。スライドを使いながら、近くにいた人のセリフや8月6日の後の様子などをリアルにお話ししてくださいました。隣の家のお姉さんが大やけどを負った様子、お母さんが重症者の手当てをした様子など、教科書では学べないことについても触れられていました。生徒たちは黒い雨のこと、何年も後から被害が出る放射線の影響に恐れを感じたようでした。「平和は当たり前のもではない」「今、日本が平和であることを幸せと感じる」といった感想も多く出されました。



○尾張旭市役所（愛知県）

令和5年12月19日 853名

被爆前の平和な日々、被爆直後の恐ろしい日々、戦後の立ち直りの日々、そして今を生きる生徒たちへのメッセージなど、様々なお話を被爆者ご本人から直接聞くことができ、大変貴重な時間となりました。また、当時の写真や図（絵）を多数使用していただき、イメージしやすく、よりお話に引き込まれました。講師が何度も「一人ひとりが講演会で聞いた話を多くの人に伝えてください」と仰っていたのが印象的であり、改めて平和な世界はみんなで作るものであると考えさせられました。



◆被爆体験伝承講話

○高知県立清水高等学校（高知県）

令和5年5月20日 97名

戦争の現実、被爆者の体験を実際に語っていただくことで、今までに学んだ熱線や爆風、放射線といった原爆の被害はほんの一部でしかなく、実際はそれ以上に、人々の心に深い傷を残すものなのだと改めて知ることができたと思います。

そして、ご家族の死を契機として、自分に何ができるのかを考え、被爆者たちの体験を多くの人に伝えようと活動されている講師の話は、平和を願う生の声として生徒たちに直接響き、今、自分が平和な場所で生きていることに感謝するとともに、世界中の人々に平和が訪れるためには何をすべきなのかと考えるいい機会になったと思います。



○瑞穂市崇南中学校（岐阜県）

令和5年8月1日 460名

被爆された方々が体験した現実や、苦しみ、思いなどを子どもたちが少しでも感じとることができるように講話をしていただきました。世の中が戦争に向かって変化していく様子を分かりやすく話していただきました。また、自分たちと同じ年齢の子どもたちが、命の危険と隣り合わせの中、戦争に巻き込まれていった現実を、学生で被爆された方々の視点で語っていただきました。最後の「平和は待っていません」 というメッセージに感銘を受け、戦争を他人事だと考えるのではなく、自分たちができることを考え、行動に示していくことを決意し感想を述べる生徒もいました。



○高槻市立大冠小学校（大阪府）

令和5年9月5日 42名

原爆が落ちる前のまちの様子から原爆投下後の様子を、実際の写真や当時の絵をもとに丁寧に伝えてくださったので、教科書やネット等で調べただけではわからない、戦争の恐ろしさ・原爆の恐ろしさについて知ることができました。当時のことを知らない子どもたち、そして教師にとっても、心が揺さぶられるエピソードでした。子どもたちのふりかえりからも、「自分が思っている以上に恐ろしいものだった」「このことを他の人にも伝えて、平和な世界をつくっていきたい」とより深く考えている様子でした。



○埼玉県立川越高等学校（埼玉県）

令和5年10月2日 378名

はじめに原爆の被害の詳細やその甚大さなどについてお話いただきました。生徒も講師のお話をよく聞いて理解しようとしていました。被爆体験者の方の生立ちのエピソードでは、原爆による被害のお話に加え、朝鮮人として日本で受けた差別の話もあり、基本的人権についても大変考えさせられる内容でした。途中生々しい表現もありましたが、高校生にお話のレベルをあわせていただき、生徒にもよく伝わっている様子でした。最後の質疑応答の場面では、現在の世界情勢や核兵器についてなど、さまざまな角度からの生徒の質問に快く対応していただき大変感謝しております。



○神戸市立御影北小学校（兵庫県）

令和5年10月12日 195名

非常に体験されたことがありありと伝わる講話でした。子ども達は、講師の話真剣に聴いていました。原爆に関するクイズなどで子どもたちの知らないことが分かり、さらに知りたいという気持ちになったと思います。パワーポイントには、たくさんの写真や資料館にある絵が入っており、話を聴きながら、視覚からも情報が伝わり、分かりやすかったです。子ども達のほうを見ながら語ってくださったので、子ども達も自分事のように感じる事ができたのだと思います。平和への思いの言葉を子ども達なりに解釈して考えを深めていました。いい学びの機会になりました。本当にありがとうございました。



○京都市立山階南小学校（京都府）

令和5年11月6日 114名

集団疎開の中での日常と、被爆後の生活のあまりに大きなギャップを感じさせるような話でした。「この誰一人、まさか今日死んでしまうとは思っていなかった。」当たり前の日常が、一瞬にして奪い去られた悲しさを感じました。被害の大きさを分かりやすく伝えるために、被爆前、被爆後という形で比較しながら話されていたので、子どもたちにとっても分かりやすかったと思います。また、原爆は他の爆弾と何が違うのか、科学的な見解から、さらには町の子どもの会話も伝えていました。皮膚がずる剥けてしまうことについて、当時の子どもたちが無邪気に話し合っている場面では、何が恐ろしいのかを具体的に伝わってきたような気がします。子どもたちは原爆の恐ろしさを十分に感じていたようでした。

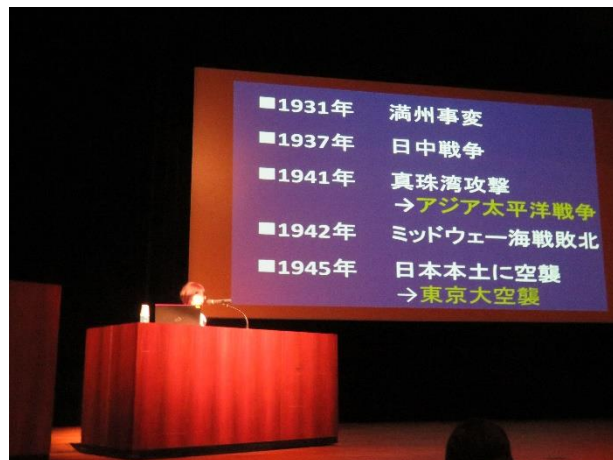


◆原爆体験伝承講話

○津市役所（三重県）

令和5年7月29日 150名

被爆者である故・平田忠道氏より受け継いだ被爆体験や平和への想いをパワーポイントを使用して分かりやすく講話していただきました。講師ご自身の家族も原爆で亡くされた体験を交えて講演しておられ、原爆の悲惨さ、戦争の恐ろしさがとても伝わってくる内容でした。是非、たくさんの戦争を知らない世代、特に若い世代に聞いていただきたいと思いました。来場者からは、「大変貴重な話を聞いてよかった」「戦争について話を聞く機会をなくさないためにも、伝承者講話を続けて欲しい」「これからの未来を担う若い世代へ戦争体験の伝承方法を国を挙げて考えて欲しいと感じました」などの感想がありました。



○茨城高等学校（茨城県）

令和5年10月16日 230名

原子爆弾の概略から、被害の状況を俯瞰された後、平田忠道氏の体験を軸に講話がなされました。氏の移動の行程を地図上で示していただき、時間の経過とともに被爆の実相を丁寧にご説明いただきました。あまりにも大きな被害であったために、大きな数字ばかりが強調される中で、一人の人間の姿に寄り添うことができ、生徒自身もわが身に置きかえて話を聞いていたようです。また、氏がお亡くなりになったこと、実際に体験された方に直接話を聞くことができなくなる中で、体験を語り継ぐ意義を示して下さったことが印象に残りました。



◆被爆体験記朗読会

○観音寺市立豊田小学校（香川県）

令和5年10月6日 27名

今回の朗読会は6年国語科「ヒロシマのうた」の事前学習として実施しました。原爆の脅威や悲惨さ、人々の悲しみや喪失感等、映像を見たり体験記等のお話を聞いたりした上で、朗読をしていただき、子どもたちの心にも響くものがたくさんあったようです。6年生の実態に応じた詩を選んでくださり、情感を込めて朗読していただくことで、子どもたちは当時の様子を想像しながら、真剣にじっくりと聞き入っていました。想像以上の悲しみや惨さを感じた子どももいたようです。また、学習発表会で「この朗読をやりたい」と、自らが発信していきたいという意欲をもった子どももいました。どうもありがとうございました。



○石狩市立花川小学校（北海道）

令和5年11月24日 50名

本校では、毎年6年生の総合的な学習で平和教育に取り組んでいます。10月からの学習でありまだ十分な学びではありませんが、今回体験記や原爆詩を実際に聞いたり読んだりすることで、当時の人々の思いを知ることができて、子どもたちなりに多くのことをより深く考えるきっかけとなりました。講師の方の朗読を、当時の人々の思いを想像しながら聞くことで、児童一人一人、自分なりに感じるが多々あったようです。とてもよい機会を提供していただきました。

